

現役理科学系学生が出張授業

現役の理科学系大学生、大学院生らで構成するNPO法人サイエンスステーション（理事長＝吉井譲・東京大大学院教授）は出張授業などを通じ、中学生、高校生世代に科学の面白さを伝えると同時に、ありのままの大学生生活、大学院生活を語る。進学や進路選択に生かしてもらおうことが狙いだ。声が掛ければ、全国どこへでも出掛けていく。

合宿でセミナーも



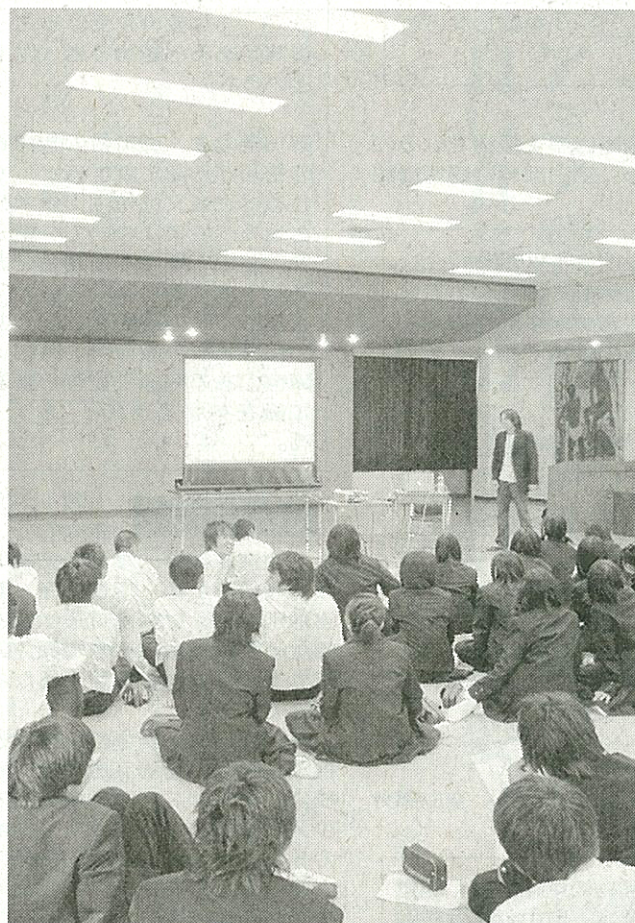
Webに関連資料を掲載

気軽に質問できる「兄貴」

「高校時代に天文学の 専門家による出張授業本を読もうとしたのですが、難しくさっぱり分科学技術の分野でも、子からなかったのです。だともたちの関心が高まるから、天文学を研究しようだ。他方で、「大御うと考えました」。中・所高校生を前に、天文学者は気軽に質問できない雰囲気を目指すこととなった動機を語る。サイエンス。その点、年齢が近いティーンズの出張授業で、大学生や大学院生が話すこんな話が出てくる。と、科学をもっと身近に理科系分野を学ぶ大学 感じられるのでは」。吉生、大学院生の一日の過 井さんは話す。

ごし方、どんな勉強をどのくらいしているか、どのくらい眠っているか、質問が飛び出すか分からない。また、研究を始めどんな趣味があり、どのくらい遊んでいるか。それは、しどろもどろになるような話をするのもある。そんな姿を見てもうっ

科学の面白さと学生生活伝えたい



とからも、科学に親しむ可能性が広がっていく。理科離れ問題に頭を悩ませてきた吉井さん。学生だからこそ教えられることがあるという考え方にたどり着いた。

出張授業に向く学生、大学院生の思いは熱い。吉井さんがトップを務める東大天文学教育研究センターは、長野県内の観測所で、高校生世代を対象に参加者を公募し、3泊4日のセミナーを開催。研究者が実際に使う装置で宇宙の観測に臨む。このセミナーに参加した経験を持つ学生らが、サイエンスステーションで活躍することとなる。

宇宙科学・天文・地震 他分野でも「応相談」

サイエンスステーションの練習をしたり、研究職志望の鳥羽さん。晴れて研究者となつて仕事をするようになった。でも、「学生に授業をしたら、一般の方向けに講演を行ったりするなど、授業全体の流れの記録を、行ったりして、現場に慣れたから、いよいよ講師を務めることとなる。今は、サイエンスステーションの理事として、研究の傍ら、各地を巡る。観測所のセミナーに参加した経験を持つ人に呼びかけて確保する。「学生相談に応じるとい

島根県立松江北高校での出張授業。東北大、早稲田大の学生と東大の大学院生がコンピュータ、電波、宇宙について教えた（サイエンスステーション提供）

す」と、吉井さんは話す。本年8月に神奈川県立横浜緑ヶ丘高校で出張授業を行った鳥羽儀樹さんは、総合研究大学院大学で宇宙科学を専攻する24歳。3時間を使って銀河やブラックホールについて語った。

生徒が関心に応じて選べる「テーマ別研修講座」の一環。生徒との交流は休み時間にも続き、「将来の進路に宇宙関連に進むというのが加わりました」との感想もあつた。

出張授業の内容は宇宙科学、天文分野のほか地震などの分野でも実施できる。これまでに実施したことがない分野でも、相談にに応じるとい。問い合わせ ☎042 2・34・50027